

【添付】 瀬戸内・九州地区におけるLNGバンカリングの展望について

- ✓ 瀬戸内・九州地区には、多くの船舶（クルーズ船、自動車運搬船、コンテナ船、バルカー、フェリーなど）が国内外から寄港
- ✓ 船舶燃料の硫黄氧化物（SO_x）規制強化（2020年～）や、温室効果ガス（GHG）排出効率に関する規制強化（2025年～）など、海運の国際的な環境規制は厳格化の流れがある。これに対応するため今後LNG燃料船は増加していくと見込まれており、4社は、瀬戸内・九州地区におけるLNG燃料供給体制について、以下のように検討中

LNG基地名	現在			5~10年後（イメージ）		
	LNG燃料供給方式			LNG燃料供給方式		
	Truck to Ship	Shore to Ship	Ship to Ship	Truck to Ship	Shore to Ship	Ship to Ship
戸畑基地	○	○ 一部供給可能（バルカー向け）	○ 供給可能 ※LNGバンカリング船型は今後検討	○	○ 一部供給可能（バルカー向け）	○ 供給可能 ※LNGバンカリング船型は今後検討
ひびき基地	○ 供給可能	△ 検討予定	×	○	△ 検討予定	△ 検討予定
柳井基地	○	×	×	○	△ 検討予定	- 未定
大分基地	○	×	×	○	△ 検討予定	- 未定

既存インフラを活用し、Truck to Ship及びShore to Shipで供給

供給範囲拡大に伴い、対応可能な基地の拡大およびLNGバンカリング船によるShip to Shipによる供給も検討

※港の使用に関しては、調整が必要



2018年クルーズ船寄港回数 (出典：国交省発表速報値)